

子どもの気持ちを静める漢方薬！

「子どもの夜泣きで困っている」と訴える母親が時々います。子どもを取り巻く環境が、子どもに何らかのストレスを与えていると思われそうですが、その原因が大人にはよく理解できません。しかし、漢方薬で子どもの情緒不安定を改善できるものがあります。

良く使用している漢方薬は「甘麦大棗湯」(カンバクタイソウトウ)です。これは小麦(シヨウバク)と甘味料として使用される甘草(カンゾウ)、昔は子どものおやつだったナツメの果実である大棗(タイソウ)の3種類の生薬から構成されています。いずれも緊張や不安を和らげる働きがあり、合わせるとその作用が強まるのです。甘麦大棗湯は約1800年前に記載がある古い薬という事なので、いつの時代にもストレスはあったという事でしょう。

甘麦大棗湯は、夜泣きだけではなく「憤怒(ふんぬ)けいれん」「泣き入りひきつけ」にも奏功します。診察室で聴診器を当てるだけで泣きわめき、そのうち息継ぎをしないまま唇が青白く(チアノーゼ)なり、けいれんが起きる子がいました。泣かさないことが一番ですが、甘麦大棗湯を服用させて徐々に発作が減ってきました。なかなか良くならないケースには、抑肝散が聞いたという報告もあります。

ここで山田英明先生の漢方薬分類が分かりやすいのでご紹介します。

カテゴリーⅠ：自信を失い、心配で怯えてオドオド・ビクビクしている状態に対して「大丈夫、怖がらなくてもいいよ、安心し

て」と言ってあげたくなる場合。

⇒甘麦大棗湯、柴胡加竜骨牡蠣湯(サイコカリュウコツボレイトウ)

カテゴリーⅡ：緊張が強く、イライラしたり沈んだりと変動が激しい状態に対して「縮こまないでもっとゆったり伸び伸びしようよ」と言いたくなる場合。

⇒四逆散(シギヤクサン)、柴胡桂枝湯(サイコケイシトウ)

カテゴリーⅢ：イライラ、ウロウロと落ち着きがなく興奮しやすい状態に対して「まあまあ少し落ち着きなさい」と言いたい場合。

⇒抑肝散(ヨクカンサン)、抑肝散陳皮半夏(・・チンピハンゲ)

情緒不安定に対する漢方薬は、心に作用するばかりでなく体の調節作用(特に消化器機能)もあることがメリットです。そして漢方薬には、「母子同服」という考え方があります。子どもと同時に母親も服用するのです。つまり子どもの心のトラブルは親の心と大いに関係するからです。

甘麦大棗湯はとても飲みやすい薬ですが、抑肝散などは少し苦いのが欠点です。でも不思議なことに子どもによってはおいしく飲めるようです。その子に合った漢方薬は抵抗なく飲めるという事でしょう。まずはお試ししてみてください。

(チャイルドヘルス 2014.5 参照)



(たまなは)